



会場風景

千葉県市川市にある東京歯科大学市川総合病院の講堂において、県外からの参加も合わせ170名の参加者を迎えて開催されました。

一般演題は、医療安全を中心として地域医療連携、クリティカルパス、DPC等について12の演題が報告

され、熱心な討論が行われました。それぞれの施設で行われている施策、日常感じていること、改善を目指した取り組みなどが報告され、医療に携わる者として興味深い内容ばかりで、地方会ならではの身近な問題について具体的・実証的な討議の場となりました。

また、2つの特別講演が行われました。まず、医療の現場が直面している問題に対して、箕淳夫先生(国立保健医療科学院 施設科学部長)による「病棟における物的環境と医療安全—特に転倒・転落について—」を拝聴しました。そして、これからの医療制度・経済の根幹に関わる問題として、池田俊也先生(国際医療福祉大学 教授)による「DPCとパフォーマンス評価〜質に応じた支払い」の可能性と課題」を拝聴しました。どちらも時宜を得た学ぶ事が多い内容であり、質疑応答終了後の休憩時間にも講師への質問が相次いでおりました。

様々な施設そして様々な職種の皆様からの発表・討論をいただき、参加者にとって非常に有意義な学術集会となりました。

第7回は千葉市立青葉病院副院長の高橋長裕先生にご担当いただき、平成20年に開催の予定です。

第1回兵庫地方会

学術集会会長：姫路聖マリア病院副院長 公文啓二



会場風景

第1回兵庫地方会は「良質で安全・安心な医療推進の共有化」をテーマに平成19年2月24日(土)に神戸国際会議場にて開催されました。3会場およびクリティカルパスポスター展示場を設け、350名程のご参加を頂きました。

主会場では理事長宮崎久義先生の基調講演「クリティカルパスと地域医療連携」、特別講演「医師不足とこれからの地域医療—人材育成と医療連携が成功のカギ—」平井愛山先生(千葉県立東金病院)、教育講演「医療の質保証に向けたカルテレビュアの活用」小林美亜先生(国際医療福祉大学)、「対話による紛争解決：院内ADRの試み」中西淑美先生(大阪大学)、「医療におけるオントロジー」宮本正喜先生(兵庫医科大学)を頂き、シンポジウム「医療の質の向上・安全推進—こうしたらよくなった—」を行いました。第2会場は教育セミナー「医療用ガスの安全な取扱い」小島純一氏(日本医療ガス協議会)、「人工呼吸マネジメントのふたつの柱—安全管理と感染予防—」時津菜子氏(タイコヘルスケアジャパン)、「病院における人事制度改革の現状と方向性—特に人事考課制度に関して—」加子栄一氏(日本総合研究所)を頂きました。ランチョンセミナーは「重大事態発生時の対応のポイント—医療の質向上と説明責任—」中島和江先生(大阪大学)、「院内感染対策に於けるICTの役割—」山智先生(京都大学)を頂きました。一般演題27題、クリティカルパスポス

ター展示23題の発表があり活発な討論が行われ、大変高いご評価を頂き兵庫地方会の礎を築くことができました。

今回は、神戸市立中央市民病院院長代行盛岡茂文先生が会長で平成20年3月1日に神戸国際会議場で開催されます。

第12回静岡県地方会

当番世話人：聖隷三方原病院呼吸器外科部長 山田 健



会場風景

平成19年2月24日(土)、第12回日本医療マネジメント学会静岡県地方会が無事開催されたことを報告するとともに、皆様に御礼申し上げます。参加者は前回とほぼ同様の204名でした。クリティカルパス討論会を実りあるものとするために、今回会場を2カ所に

分けて4題を討論していただきました。肺癌手術、前立腺全摘術、大腸手術、大腿骨頸部骨折のベンチマークを行い、今後の静岡県版の指針になれば幸いと考えております。また展示クリティカルパスをフリーディスカッションとし、活発な討論が行えました。小児胃腸炎クリティカルパスや双胎妊娠クリティカルパス等の新たな分野のクリティカルパスの発表もありました。口演発表では、今回テーマとしたリスクマネジメントの発表を3題していただきました。済生会熊本病院の副島秀久先生に特別講演を発表していただき、クリティカルパスの重要性を再認識させられました。

日本医療マネジメント学会静岡県地方会も今回で12回となり、内容も充実してきました。さらにクリティカルパス討論会も回を重ね、バリエーション分析から標準化に移行しつつあります。今後もクリティカルパス討論会は継続し、実りある地方会となるように皆様といっしょに頑張っていきたいと思っております。

第2回岡山地方会

当番世話人：岡山済生会総合病院院長 糸島達也



会場風景

平成19年2月24日(土)、岡山済生会ライフケアセンターにて、日本医療マネジメント学会第2回岡山地方会学術集会が開催されました。

当日は県内外より278名の参加があり、午前一般演題(口演)14題、一般演題(ポスター発表)13

題、クリティカルパス展示25題の発表が行われました。

午後からの特別講演では、赤穂市民病院邊見公雄院長に今後の医療界の動向をユーモアを交えてお話いただきました。その後、「医療安全の向上をめざして—私達の取り組みと工夫—」と題したシンポジウムが行われ、5人のシンポジストが危険予知・予防という観点からそれぞれの施設での取り組みを発表し、討論が行われました。

当初の予想以上の演題申込及び参加者があり、医療マネジメントに関する関心の高さが窺えました。演題発表時には活発な質疑応答があり、参加者にとっては他施設の医療安全等への取り組みから、自施設を振り返る有意義な機会となりました。また他施設の医療